



まちの名に 歴史あり

2年間にわたり、交野の地名を紹介してきたシリーズも、今回で終わりです。今では消えてしまったり、由来の分からない地名もありましたが、これらはすべて祖先が名付け、親しんできた地名です。今ある地名も、大切に残していきたいものです。

問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

じごくだに
地獄谷 傍示川と星田新池に挟まれた谷を指します。この谷を主に地獄谷と呼び、谷を流れる川が、星田新池の水源の一つとなっています。

地獄谷という地名は、一般に人が足を踏み入れにくい所につけられます。

星田の地獄谷も、何かしら寂しげで歩いてみると、谷が深く狭く異様な雰囲気を感じ、一刻も早く谷を出たいという衝動にかられるそうです。



星田新池付近から

びんざら かたのやま まぜみ
髪皿・交野山・交見

髪皿は、現在の星田山手1丁目にあたる地域です。髪皿とは、平地や谷間の皿のような窪地、あるいは山の斜面に少しばかりある平坦地を指す言葉です。

星田にある交野山は、「こうのさん」ではなく、「かたのやま」と呼びます。

交見は、交野山から傍示川沿いに伸びる丘陵の終わり部分から大谷橋までです。今は住宅地となり、昔の地形が分かりづらくなっていますが、丘陵の末端で、傍示川の堤防のようになっていました。交見という漢字は当て字で、古くは「ませめ」といい、狭い谷を意味します。

わりばやし
割林 地獄谷の西の尾根を指します。江戸時代中期には、星田の山々のほとんどがはげ山となっており、冬には薪不足に悩まされる状態でした。そこで、林を割り振りして薪を切り出す順番を決めました。割林という地名は、星田の人々が、冬に薪を伐採していた雑木林であったことから名付けられたのでしょう。

あそだに いしのもと こわじ
阿曾谷・石ノ本・強地

交野山の西側と大谷新池の北側との間を阿曾谷と言います。阿曾という地名は、阿蘇山・浅間山のように火山や温泉に関係することが多いのですが、ここでは、「浅い谷」から阿曾谷となったようです。

石ノ本は東高野街道沿いで、阿曾谷の方から西へ大きく広がり、段々に水田が下がってきているところです。洪水で阿曾谷から土砂が流れ、堆積してできた土地かもしれません。

強地は、ほとんどが竹林で覆われていました。竹林は粘土質のところが多く、もともと土に強い粘りがあり、固い土地であるということから名付けられたのかもしれません。

おわびと訂正

広報かたの2月号26頁「まちの名に歴史あり」の表記に誤りがありました。

正しくは次のとおりです。

(誤) 日連宗小松寺

(正) 法華宗(本門流)小松寺

深くお詫びし、訂正いたします。

